

2021年9月5日

2021年ラウンド2レース5 TOM'S YOUTHの古谷悠河選手、接戦を制して悲願のFRJ初優勝！ ポールトゥウィンで完全勝利

2021 Formula Regional Japanese Championship(フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ)のラウンド2 レース5の決勝が9月5日(日)にツインリンクもてぎで行われ、28号車の古谷悠河選手(TOM'S YOUTH)がポール・トゥ・ウィンでシリーズ初優勝を飾りました。



午前中の公式予選2と同様にドライコンディションでスタートしたレース5。ポールポジションの古谷選手は好ダッシュでホールショットを決めてみせました。8号車の三浦愛選手(ARTA F111/3)も好スタートで2番グリッドからスタートした45号車を駆る大草りき選手(PONOS Racing)を抜いて2番手を奪いますが、その後の3コーナーで大草選手が抜き返し、ポジションを取り戻しました。

1周回目からトップを走る古谷選手を大草選手が猛プッシュする激しいトップ争いが展開されましたが、3周回目にマスタークラス5番手を走っていた田中優暉選手(ASCLAYIndサクセスES)のマシンから白煙が上がり、S字コーナーでストップ。マシン回収のため、セーフティカーが導入されました。

6周回を終えたところで再スタートが切られると、再び古谷選手と大草選手のトップ争いが白熱。7周回目の90度コーナーで大草選手が追い抜きにかかろうとしましたが、ポジションが入れ替わることはありませんでした。

レース後半に入っても、お互いがファステストラップを更新し合う一騎打ちの展開となりましたが、ラストパートをかけた古谷選手が残り2周回になって大草選手を引き離し、最後は1.3秒の差をつけてチェッカーフラッグを受けました。

これにより、参戦2年目の古谷選手は19レース目にして悲願のFRJ初優勝を飾りました。2位には大草選手、3位には三浦愛選手が続きました。

マスタークラスでは、スタートでクラストップに躍り出た三浦勝選手（CMS F111）が徐々に同じクラスのライバルを引き離していき、クラス初優勝を飾りました。2位には11号車の植田正幸選手（Rn-sportsF111/3）、3位には96号車TAKUMI選手（B-MAX ENGINEERING FRJ）が入りました。

レース5 優勝 古谷悠河選手コメント

「嬉しいです。やっと勝てました。昨年の中盤戦からずっと2位が続いていたので、ホッとしました。序盤、セーフティカーが解除された後の数周までは大草選手に詰められる部分がありましたが、その分、レース後半は僕の方がタイヤのタレが少なかったのかなと思います。とはいえ、最初から最後まで毎周がフルプッシュでした。残り2周になって少し差がついたので『このまま、いけるかな』と思いました。とにかくミスしないことを心がけていました。3レース目も勝って終わりたいですね」

レース5 マスタークラス優勝 三浦勝選手コメント

「FRJで初めて勝つことができ嬉しいです。スタートをうまく決めることができ、そこから流れを作ることができました。徐々に背後との差も広がったので、途中からは無理に前を追わずにコントロールしながら走っていました。ただ、後半になってミッション系の部分に不安なところがあったので、そこも労わりながら走りました。次のレースも勝てるように頑張ります」

以上

